

基準7 教育環境

(1) 観点ごとの分析

観点7-1-①： 専門職大学院の教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備として、講義室、演習室、実習室、IT関係等が整備され、有効に活用されているか。【「専門職大学院設置基準」17条】

【観点到係る状況】

本専門職大学院では、清瀬キャンパスに共通選択必修科目を行う1専用教室（C601教室）、コース毎に分かれて行う両大学院共用の1教室（C602教室）があり、演習室は学部と両大学院が共用しながら6演習室を授業で使用している。

1専用教室は、グループディスカッションやロールプレイ、ワークショップ形式による授業にも対応できるよう机は固定式とはせず移動式としており、DVDやパワーポイント等に対応する視聴覚設備を備えている。

また介護技術を理解するための演習や、施設環境改善の授業等を行うための介護実習棟がある。

さらに専任教員には、それぞれに教員研究室1室ずつ整備されている。

なお、文京キャンパスを平成21年9月1日より校舎の有効活用が行えるようにリニューアルオープンし、専門職大学院のビジネスマネジメントコース科目の授業は殆どが文京キャンパスで行われている。それのような教室としては専用に利用できる1教室があり、演習室としては5教室を確保している。さらに、社会人各層に応えるリカレント教育の講座を開講するなど、都心部における本学のサテライト機能として活用している。また、キャンパス内には卒業生同士や在学生との交流の場として「同窓会・福祉サロン」が設置されており、情報交流・発信の場としても活用している。図書館分室（図書情報室）も設置し、授業の他、講座受講者の利用を想定し、主に経営、社会保障、老年学、社会福祉関係の図書を300冊配備している。雑誌についても、シルバービジネスマーケット、週刊東洋経済等、社会福祉と経営関係の雑誌も充実している。専門職大学院や研究大学院、社会福祉学部の授業、各種講座、専門職大学院説明会等にも活用し、福祉関係団体の利用にも供している。

【分析結果とその根拠理由】

上記のとおり、教育研究組織及び教育課程に対応した施設が整備され、有効に活用していると判断する。

観点7-1-②： 自主的学習環境として、自習室、グループ討論室、情報機器室等が十分に整備され、効果的に利用されているか。

【観点到係る状況】

清瀬キャンパスでは授業時間外の学習時間等の確保のための自主的学習環境として、院生自習室や専用のPC（20台）が設置された情報処理分析室があり、授業終了後や授業時間外に自由に利用することができ、レポート作成や討議等に活用している。また図書館にはコンピュータールームがあり、そこに配備されている50台のPCは自由に利用することが可能となっている。

さらに休日や休業期間中においても、予め届出を行うことによって、院生自習室、情報処理分析室及び専用教室や演習室も利用することができる。なお、情報処理分析室の PC については平成 23 年度に全機種の更新を行い、SPSS の導入も行っている。

文京キャンパスでは、PC を配置してある図書館分室は授業等で使用時以外は自由に利用でき、その他の教室も同様である。男女別の静養室も備えている。

【分析結果とその根拠理由】

上記のとおり、院生の自主的学習環境として、院生自習室や情報処理分析室が十分に整備され、効果的に利用されていると判断する。

観点 7-1-③： 専任教員の個別研究室の整備等、十分な教育研究環境が用意されているか。

【観点到係る状況】

専任教員にはそれぞれに教員研究室 1 室ずつ整備されている。各室ごとに LAN 環境が整備されており、研究教材図書用の書架もあり、教員研究費等により購入した書籍も手元に置き随時閲覧も可能である。また打合せ用のテーブルがあり、オフィスアワーや研究打合せ、ゼミ等にも活用でき十分な教育研究環境となっている。

【分析結果とその根拠理由】

上記のとおり、各教員には個別研究室が整備され、また LAN 環境も整備されていることから、十分な教育研究環境が用意されていると判断する。

観点 7-2-①： 図書、学術雑誌、電子媒体、視聴覚資料、その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備され、有効に活用されているか。

【観点到係る状況】

本学の社会事業図書館は、中央社会事業協会（現在の全国社会福祉協議会）が昭和 9 年に設置した社会事業研究所図書室の蔵書を引き継いで開設し、大学附属図書館として教員・学生の教育・学習・研究に資する図書資料の整備拡充に努めている。そのために戦前の貴重図書・資料とともに、戦後の社会福祉の重要な図書・資料も豊富に所蔵している。

現在は約 24 万冊の資料、約 3,600 タイトルの雑誌を所蔵し（資料 G-1）、なお更新・受入を進めている。社会福祉の単科大学という性格から、その収書の過半数が社会福祉・社会保障に関する図書である。その中には中央社会事業協会の旧所蔵書をはじめとした社会福祉の貴重なコレクションがある。貴重図書はマイクロフィルムやデジタルライブラリで閲覧できる。蔵書の構成は本学の教育目的である福祉の入門書・専門書を主に収集しているが、他の分野も幅広く収集しており、図書館運営委員による選書の他、学生からのリクエストも選定内規に適うものであれば収集している（資料 G-2）。また、図書に限定せずに雑誌、電子ジャーナル、データベース、映像資料の収集も対象としている。（資料 G-3）

ホームページには、情報検索に役立つ情報リソースページを作成し、各種データベースや電子ジャーナルへアクセス可能としている。図書館の開館時間は資料G-4のとおりであるが、夜12時まで利用できる夜間閲覧室や車椅子用閲覧席も備えている。学生は所蔵資料とともにインターネットを利用してデータベース等の検索を行ったり、その場でレポート作成をしている。図書館の館外貸出冊数と学生一人当たりの貸出冊数の状況は小規模大学としてはかなり多いと思われる。(資料G-5、資料G-6)

本学の所蔵する図書の分類では、社会福祉分野が圧倒的に多いが、専門職大学院の開設を契機に今まで蔵書が少なかった経営学分類の経営マネジメント関係の図書の整備に努めており、現在は約2,400冊程度となっている。

資料G-1 資料所蔵点数及び雑誌所蔵種数

区分	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
資料所蔵点数	198,257	203,959	213,171	219,760	224,696	230,519
雑誌等所蔵種数	3,090	3,101	3,149	3,268	3,323	3,323

区分	平成21年度	平成22年度	平成23年度
資料所蔵点数	236,210	239,559	242,397
雑誌等所蔵種数	3,372	3,550	3,596

資料G-2 所蔵図書分野別割合

分野	絵本	0 総記	1 哲学	2 歴史	3 社会科学	4 自然	5 工学	6 産業	7 芸術	8 言語	9 文学
割合	0.9	2.6	5.6	5.4	64.2	9.3	1.8	1.5	1.8	1.8	4.6

資料G-3 受入図書・資料数推移

区分	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
図書等	7,647	5,791	9,710	7,170	5,210	6,149
視聴覚資料	129	91	67	45	40	91
逐次刊行物	1,063	1,066	1,079	1,179	1,199	1,198
電子ジャーナル契約	0	0	2	2	2	2
データベース契約	3	3	4	4	4	4

区分	平成21年度	平成22年度	平成23年度
図書等	6,399	4,665	4,270
視聴覚資料	61	282	24
逐次刊行物	1,216	1,245	1,239
電子ジャーナル契約	2	2	2
データベース契約	4	4	4

資料 G-4 図書館開館時間

平日	授業期間中	9時00分～20時
	休業期間中	9時00分～17時
土曜	授業期間中	9時00分～13時
	休業期間中	9時00分～12時30分
日・祝日		休館

資料 G-5 図書館の利用者数

平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
88,314	84,856	82,566	93,602	104,763	105,798	95,396

平成22年度	平成23年度
98,373	90,704

資料 G-6 学生一人当たり館外貸出冊数

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
学部生	15.3	14.2	13.2	11.7	11.2	10.7
大学院生	29.6	24.2	26.4	20.1	19.3	21.4

	平成21年度	平成22年度	平成23年度
学部生	11.0	9.8	10.8
大学院生	13.5	14.0	12.1

【分析結果とその根拠理由】

上記のとおり、図書、学術雑誌等その他教育研究上に必要な資料は系統的に整備され、有効に活用されていると判断する。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

図書館における福祉専門の蔵書冊数も多く、また、自習室や情報処理分析室など学習環境としては十分なものとなっている。教員研究室も専任教員に1部屋ずつ整備されている。

また、平成21年度に文京キャンパスをリニューアルオープンして活用しやすくしたことにより、現職を持つ長期履修生の交通アクセスがよくなり、また、主に夜間に開講しているリカレント講座でも、社会人の方々の利用もしやすくなっている。

【改善を要する点】

空調設備は旧式なものであるため適切な温度調整がしにくい状況に変化はないが、担当者の緻密な工夫と尽力による温度調整により、学生からの苦情は殆どなくなったが、教育環境向上のためにさらなる改修を検討する必要がある。

(3) 基準7の自己評価の概要

従来より、本専門職大学院の教育目的に沿った演習室、講義室等が整備されており、自主的学習環境として院生自習室や専用のPCが設置された情報処理分析室があり、授業終了後や授業時間外に自由に利用しレポート作成や、討議等に活用しており、学生にとって学びやすい環境を引き続き整備している。図書館の蔵書冊数等は小規模単科大学としては十分なものであり、毎年、図書運営委員による選書や学生からの要望も選定内規に合うものであれば収集を行い、計画的に整備している。図書館の利用者数や学生一人当たりの利用冊数も、引き続き比較的多く有効に活用されている。教員研究室も専任教員に1部屋ずつあり、引き続き十分な教育研究環境が整備されている。